

台湾の産業別動向（別紙）

（１）工業生産指数(1996 = 100)

年度	工業全体	鉱業	製造業	電力・ガス	建築
'96	100	100	100	100	100
'97	107.4	99.7	108.7	106.1	83.7
'98	110.3	78.0	111.3	114.2	84.2
'99	118.8	77.3	120.3	118.5	89.7
'00	127.5	72.1	129.9	130.3	76.2
'01	118.2	77.8	119.5	132.6	66.8
'02	125.7	79.4	128.4	137.5	51.5
対前年比	(6.4)	(2.1)	(7.5)	(3.7)	(-23.1)

（２）商業営業額指数(1996 = 100)

年度	商業全体	卸売	小売	貿易	レストラン
'96	100	100	100	-	-
'97	104.2	106.5	108.4		
'98	112.4	109.2	114.7	112.3	111.3
'99	124.5	121.4	125.2	126.1	123.3
'00	135.9	125.5	130.0	149.5	135.2
'01	126.9	121.3	126.1	132.5	117.8
'02	133.9	127.5	133.2	140.6	117.8
対前年比	(5.5)	(5.2)	(5.7)	(6.1)	(-0.1)

工業・商業とも、'02年は01年に比べ回復基調にあるが、経済のピークにあった00年並みまでは至っていない。鉱業、電力・ガス及び卸売、小売はすでに00年を越えている。さらに製造業においても'02年後半は'00年時を超えている。

（３）商品のルート別営業額指数(1996 = 100)

年度	デパート	スーパー	コンビニ	量販店	その他	合計
'96	100	100	100	100	100	100
'97	107.3	106.9	118.1	114.9	108.9	110.6
'98	105.4	114.7	138.5	136.2	111.5	118.6
'99	114.6	120.0	164.8	162.4	114.6	132.2
'00	123.7	119.0	178.7	188.5	120.4	143.3
'01	127.9	122.5	198.0	198.5	113.3	149.2
'02	142.8	120.9	219.9	206.2	106.9	158.1
対前年比	(11.6)	(-1.3)	(10.9)	(3.9)	(-5.6)	(6.0)

'02年の量販店の伸びは沈静化しているが、コンビニは好調、デパートも完全回復した。

(4) 経済部工業統計から

生産統計中分類27業種の中、'96~'00年の5年間連続して成長を続け、製造業を引っ張ってきた業種7業種の現況は次の通り。

	生産指数 ('96=100)			
	'00	'01	'02	対前年比
紙	111.3	105.3	107.4	102.0
印刷関連	118.2	119.2	115.5	96.8
化学材料	127.3	134.6	142.8	106.1
石油製品	121.7	133.4	149.6	112.1
金属基本工業	139.2	127.4	140.9	110.5
機械設備	114.4	97.0	105.5	108.7
電子電力	185.3	168.1	185.9	110.6
製造業全体	129.9	119.8	128.3	107.1

'02年で、'00年の水準に戻った業種は化学材料、石油製品、金属基本工業、電力電子の4業種あり、また機械設備も'02年後半には'00年水準に戻り活況を見せている。

しかし、他の3業種は極めて低水準にあることが分る('99年以前のレベル)。

その他業種も、精密機器業('00年119.8、'02年127.7)以外は全て98年以前のレベルにあり、不況業種と言える。

	生産指数 ('96=100)			
	'00	'01	'02	対前年比
その他業種 (20種)	100.8	91.8	93.1	101.4

上記において、'02年の水準が既に'00年を超えている業種を更に小分類で見ると次の通りで、ウエイトは工業全体の中、28.6%である。

紙	パルプ、紙容器
印刷	製版、装訂
石油	石油基本化学、石化原料、合成樹脂、合成ゴム、石油煤製品
金属基本	鉄鋼、軋鋼、鋼材表面処理、銅材二次加工
機械設備	金属機械手工業、木工、専用生産機械、事務機器、圧縮通風機 ベアリング、歯車
電子電力	データ保存、データ端末、電脳部品、電脳設備、視覚電子部品 通信機器、半導体、光電材料、電子部品、電池